

平成 29 年度
大阪府立寝屋川高等学校

学校教育自己診断

結果と分析

実施日

平成 29 年 12 月

ホームルームで実施

実施対象

生徒 1179 / 1197 (98%)

保護者 783 / 1197 (65%)

教職員 56 / 72 (77%)

生徒編

質問全 15 項目のうち、「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した保護者と同様に 80%を超えた質問が昨年と比較して 1 項目(10→9)減少している。

- 学校経営計画にある「安全・安心に生活できる学校に関する「学校で命の大切さや、人権について学ぶことがある」の項目で約 10 ポイント減少しているため、近年の課題となっている SNS に関する対応も含めて人権教育の充実は大きな課題である。
- 「自分で計画を立て、家庭で学習する時間を待つように努力している」「自分のスケジュールを管理し、学校行事や部活動と学習の両立ができています」という生徒の自主性に関する項目は昨年より若干ポイントを上げて、徐々ではあるが、主体的に活動する姿勢が定着しつつあることを示している。
- 「自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う」という項目が前年より減少しており、寝屋川高生としての自己肯定感を高める方策も検討課題として考えていく必要がある。また「先生は、教え方を工夫してよく分かる授業をしてくれる」 および「先生は生徒のことを真剣に考えてくれ、信頼している」は両者ともに 80%を超えているが、前年度比では 5 ポイントほど減少しているため、授業力向上が信頼度向上の一要素であると捉えるなら平成 30 年度実施予定のパッケージ研修Ⅲを活用して、ポイント上昇の一助としたい。

① そう思う ② どちらかというと思う ③ どちらかというとは思わない ④ そうは思わない		平成 29 年度	平成 28 年度
		全体 割合	全体 割合
学校で命の大切さや、人権について学ぶことがある。	①	32.8%	43.1%
	②	43.4%	42.5%
学校は生徒の健康の保持増進や安全対策に取り組んでいる。	①	23.7%	23.3%
	②	48.5%	50.9%
先生は生徒のことを真剣に考えてくれ、信頼している。	①	32.0%	35.5%
	②	50.3%	50.3%
先生は、教え方を工夫してよく分かる授業をしてくれる。	①	30.8%	30.7%
	②	51.3%	56.0%
自分で計画を立て、家庭で学習する時間を待つように努力している。	①	33.4%	28.8%
	②	39.2%	42.1%
自分のスケジュールを管理し、学校行事や部活動と学習の両立ができています。	①	25.0%	23.2%
	②	44.0%	43.1%
自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う。	①	35.0%	36.8%
	②	42.0%	45.6%

保護者編

質問全 15 項目のうち、「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した保護者が 80%を超えた質問が昨年と比較して 1 項目（12→11）減少している。

- 「学校の生徒指導について、理解し共感している」「部活動に参加することで子どもは成長したと感じている。」という項目は 90%を超える高い満足度で前年より増加している。学習以外の面で学校全体の取り組みが評価されたと考える。
- 学校が学校経営計画で掲げる「すべての生徒が安全・安心に生活できる学校」づくりに対する取り組みが「学校は子どもの健康や安全に十分に配慮している」の項目で前年より増加していることは一定の評価と考えるが、今後、様々な対応が必要となるので校内での連携を強めていくことが重要となる。
- 昨年度とほぼ、同数の状態である学力向上や進路指導に関する項目（「学校の学習指導によって、学力が向上し満足している」「学校の進路指導は豊富な情報提供など丁寧に指導している」「学校は授業以外でも学力増進のための教育活動に取り組んでいる」については平成 33 年度の入試改革に向けて学校としては対応を迫られる部分であるので、この点の満足度を向上させるための方策を進めていく必要がある。

① そう思う ② どちらかというと思う ③ どちらかというとは思わない ④ そうは思わない	平成 29 年度	平成 28 年度
	全体 割合	全体 割合
学校の生徒指導について、理解し共感している。	① 32.1%	28.7%
	② 56.7%	56.2%
学校の学習指導によって、学力が向上し満足している。	① 20.5%	19.9%
	② 48.1%	48.2%
学校の進路指導は豊富な情報提供など丁寧に指導している。	① 24.9%	25.6%
	② 51.6%	51.5%
学校は子どもの健康や安全に十分に配慮している。	① 28.3%	23.1%
	② 57.0%	60.4%
学校は授業以外でも学力増進のための教育活動に取り組んでいる。	① 29.4%	29.1%
	② 49.4%	52.6%
部活動に参加することで子どもは成長したと感じている。	① 56.4%	54.6%
（部活動加入者のみ回答してください）	② 35.5%	32.2%

教職員編

質問全 15 項目のうち、「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した保護者と同様に 80%を超えた質問が昨年と比較して 1 項目(10→9)減少している。

○保護者および生徒と同様に教職員も「学校の人権教育体制は十分に機能している」はポイントが低い。三者の感覚がほぼ一致しているのは、学校の取り組みが成果をあげれば、質問に反映される可能性があると考えられるので、前述のことではあるが、学校が取り組む課題として重要な点である。

○「学校は生徒の学力伸長や進路実現のために一体となって取り組んでいる。」の項目において①②の肯定感は 89.3 → 92.6% と増加しているが、「①そう思う」に関して、41.1 → 29.6% と減少しており、強い一体感を持てるように組織としての取り組みが必要となる。同様に 「各教科において学習指導計画や評価について十分な議論がなされている」についても 同様の傾向にある。

○その反面、「教授法や教材研究など自己研鑽の時間や生徒と向き合う時間が確保できている」について若干の増加がみられるので、この現状をより強い一体感やより充実した論議につながるよう進めていくことが肝要となる。

① そう思う ② どちらかというと思う ③ どちらかというとは思わない ④ そうは思わない	平成 29 年度 全体 割合	平成 28 年度 全体 割合
学校の教育目標が共有され、全員で協働して、組織的に教育活動に取り組んでいる。	① 16.7%	32.1%
	② 57.4%	39.3%
学校は生徒の学力伸長や進路実現のために一体となって取り組んでいる。	① 29.6%	41.1%
	② 63.0%	48.2%
学校の特別活動や部活動は人間力を育成する上で大きな意味がある。	① 75.5%	58.9%
	② 20.8%	37.5%
学校の人権教育体制は十分に機能している。	① 7.4%	10.7%
	② 35.2%	55.4%
各教科において学習指導計画や評価について十分な議論がなされている。	① 15.1%	21.4%
	② 66.0%	44.6%
自分は指導内容・方法など工夫・改善をおこない、生徒の意欲喚起に努めている。	① 51.9%	44.6%
	② 46.2%	51.8%
教授法や教材研究など自己研鑽の時間や生徒と向き合う時間が確保できている。	① 14.8%	17.9%
	② 42.6%	35.7%